
届かぬ謝罪

ガイハン・ボシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かぬ謝罪

【Zコード】

Z5753D

【作者名】

ガイハン・ボシ

【あらすじ】

もう会えぬ友への届かない謝罪の言葉・・・。

(前書き)

読んだ後、気持ちが沈むと思うので氣をつかってください。・・・。
楽しい詩とは言えませんが、読んでいただければ幸いです。

君は遠くへ行ってしまった

全ては僕の弱い心が起こした事だ

今謝りの言葉を並べたところで　君に届きはしないだろう

それでも今　ここで謝罪を歌わせてほしい

僕達は親友だった

互いに悩みを打ち明けて　苦しみを共にした

互いに喜びを伝え合い　楽しさを共にした

明るい話も暗い話も　軽い話も重い話も　くだらない話も大事な話も

話せることはみんな話した

どちらかが苦しめば　もう一人が助けた

どちらかが幸福なら　もう一人も喜んだ

どちらかが道を外せば　もう一人が正した

君がいてくれて僕は幸せだった

だけど　今まで心を開ける相手がいなかつた僕は

その幸せを疑つてしまつた

信じきつてもいいのか　ほんの少しだけ不安になつた

だから僕は聞いてしまつた

「君は僕を嫌つたりしてない？」

僕は「当たり前だ」という言葉を待つて

だけど君は無表情で　そのままどこにもいなくなつた

僕はその時訳が分からなかつたけど

今なら僕の言葉の重み どうしようもないくらいにわかるよ
君の親友を名乗つたくせに 僕は友情を確認してしまつた
君を信用してゐるなら 僕はそんな事聞くべきじゃなかつた
君を信用していなかつたと言われても 僕は否定できないね
君がくれた幸福と 君がくれた信用を
僕は僕自身が壊してしまつた

ホントは君を信じてたなんて 今さら信じもらえないよね

ごめんね ごめんね ごめんね ごめんね・・・
許してなんて 言えないよね・・・

(後書き)

『親友』といつも言葉は決して軽いものではないのです。

「この人なら何があつても信じられる」

そんな人こそが『親友』なのです。

好かれているか疑つてしまつようでは、相手を信用できません。

・・・説教みたいになつちゃいましたね。

19年ちょっととしか生きていかない若造ですが、これが僕なりの考え方です。

何か意見があればよろしくお願いします。

この先の人生の参考にさせていただきたいので(笑)

読んでください、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5753d/>

届かぬ謝罪

2010年11月23日05時29分発行